



# オール 大島

## 【学校教育目標】

「思いやりと実践力を持つ人間性豊かな  
生徒の育成」[自立貢献]

平戸市立大島中学校  
2023. 11. 21  
第 25号 発行  
文責

校長 小田 教哉

## はきものをそろえる

……大島っ子に伝えたいこと……

はきものをそろえると 心もそろう

心がそろうと はきものもそろう

ぬぐときにそろえておくと はくときに心がみだれない

だれかがみだしていたら だまってそろえておいてあげよう

そうすれば 世界中の人の心もそろうでしょう

藤本 幸邦



私が教師になり、その初任校で出会ったU教頭先生に、下足箱の靴を整える（整えさせる）ことと、生徒たち全員（当時700人以上）の名前を覚えること、という指導を受けました。

それから30年以上経ち、名前はなかなか覚えることが難しくなりましたが、下足箱の靴を整えることは毎朝継続しています。（下足箱とトイレを見れば学校の雰囲気わかります。）

さて、上に書いている「詩」は、長野市にある円福寺の住職であった藤本幸邦（こうほう）という方がつくりました。彼は戦後孤児となった子を何人も引き取り、自分の寺で育てることにしました。ある日、玄関を見ると、脱ぎ捨てられたはきものが折り重なったり、あちこちに散らばったりしていましたので、それを見た藤本さんは、「はきものをほったらかしにしておくと、また戦争になってしまうぞ」と教えました。その教えは禅宗の「脚下照顧」（ぎゃっかしょうこ）といい、子どもたちにわかりやすく伝えるためにこの詩をつくったそうです。

「脚下照顧」とは、「他に向かって理屈を言う前に、まず自分の足元（身近なこと）をよく見て自分のことをよく反省すべきこと。また、足元には気をつけよ。」という意味だそうです。つまり、はきものをそろえずに脱ぎっぱなしにするという行動は他の人がどのような気持ちになるのかということを全く考えていないということを表しているのです。反対に、はきものをそろえることができる人は、心が穏やかで、他の人がどのような気持ちになるかを考えることができる人です。さらに他の人が乱したはきものを黙ってそろえることができる人でもあるのです。このように、他の人の気持ちを考えることができるようになれば、お互いに気持ちのよい生活ができるようになり、争いごともなく、平和で幸せな世の中になっていくことにつながっていくと私は思います。

法務省は、12月4日（月）～10日（日）の1週間を「第75回人権週間」と定めており、全国各地で人権啓発活動が行われます。いじめや虐待、性被害等子どもの人権問題、インターネット上の人権侵害、障がいのある人や外国人、性的マイノリティ等に対する偏見や差別、部落差別（同和問題）、ハンセン病問題といった様々な人権問題が依然として存在しています。これらの問題の解決には、私たち一人一人が様々な人権問題を自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととしてとらえ、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて考えていかなければなりません。「はきものをそろえる」という、ほんの小さな思いが大島っ子の心の中に育っていれば、校長としてこんなに嬉しいことはありません。

※思いやりと実践力を持つ 人間性豊かな皆さんであることを願います。

